

銀座でミツバチ飼育を始めたころ、農業に弱いミツバチを守るために環境保全型農業を実践する全国の皆さんとの交流が生まれ、「森、里、街、海をつなぐサステイナブルネットワークフェスタ ファーム・エイド銀座」が始まりました。全国の森や里、または海で頑張っている一次生産者の皆さんが銀座に集まり、マルシエやフォーラムを通して街の皆さんと交流しながら地域の未来を考えます。

都市養蜂に刺激されミツバチ飼育をはじめたい皆さんによばれて地域を訪問する機会も増えました。豊かな広葉樹の森と在来種のニホンミツバチの営巣を期待しながら行くと見ると、森はあってもスギやヒノキの人工林が多く、蜜や花粉源となる広葉樹が少ないことに気がつきました。

美味しいハチミツを収穫するためには花がなければいけません。その花は何でもよいというわけではなく、蜜や花粉の源となる植物が必要です。一般に養蜂家はハチミツを採りたいので蜜源に注意が向いてしまうのですが、ミツバチの子どもたちを育てるために必要なものが花粉のタンパク質です。

ミツバチは卵から約2・5日で幼虫になります。幼虫になってから3日間は女王蜂の食べるローヤルゼリーに似た成分のワーカーズミルクを与えられ、4日目〜6日目にはハチミツと花粉を混ぜた

## ミツバチ目線で緑の街を①



# ミツバチ育てるには花粉も大切 豊かな生態系へ広葉樹の森作り

NPO法人銀座ミツバチプロジェクト 理事長 高安和夫

花粉団子を食べます。花粉からの栄養を補給するこの間に幼虫の身体も急成長し12日間の蛹を経て羽化します。群れが健康でよい状態であるためには、蜜源だけでなく花粉源が必要になるのです。

ミツバチが受粉する広葉樹の森は沢山の昆虫や鳥、小動物を育み、それを捕食する大型動物の住処ともなります。日本では縄文時代以前から、ミツバチの受粉で豊かな森と生態系を形成してきました。

### 霧島高原のプロジェクト

霧島高原の宮崎県側に広がるえびの市の街の中心から離れた奥山に福留義定さんの採蜜場があります。周辺には、やはりスギやヒノキなど針葉樹の山が広がっています。福留さんは、蜜や花粉源となる樹木が十分でないなら自分で植えることを思い立ち、伐採したスギやヒノキの山を買い増し蜜・花粉源となる樹木の植林を始めました。

始めた当初は随分失敗もしたそうです。蜜・花粉源植物でもその場所により向

### 事業紹介

NPO法人銀座ミツバチプロジェクトは、2006年3月から銀座のビルの屋上でミツバチ飼育を開始。ホテル、レストラン、百貨店など銀座の老舗と連携したハチミツ商品づくりや屋上緑化、地域の生産者との交流事業を通して街の活性化に貢献。平成22年6月環境大臣表彰。平成24年4月農林水産大臣より「食と地位の『絆』づくり」選定を受ける。

き不向きがあり、育たず枯れてしまう苗木がありました。また、植えた苗木を片っ端から食べに来る鹿などの鳥獣被害から苗木を守ることも一苦労です。そうした苦労を乗り越えて山にはユリの木やクログアネモチなどの蜜・花粉源植物が育っています。昨年からは福留さんと一緒に霧島高原で「みつばち千年の森づくり」を始めました。ミツバチをシンボルに、生きものが暮らせる千年続く森を後世に残していく夢のプロジェクトのスタートです。今年には茨城県城里町でもはじまり、やがては全国に生物多様性を保全する森づくりの仲間が増えることを願っています。



2015年3月、第1回みつばち千年の森づくり植樹大会で記念撮影